

教育実習体験記

6月になって教育実習が本格化しました。多くの4年生が千葉県や東京都のみならず自身の地元に戻って中学校または高等学校で実習を行っています。今回は、教育実習を終えた3人の学生（日本語学科の伊藤浩志さんと高橋翔吾さん、英米語学科の武藤美優さん）に実習での体験談を寄せてもらいました。

<参加学生の声>

伊藤浩志さん：「母校の中学校での教育実習では、校長先生をはじめ多くの先生方に大変お世話になりました。僕が一番思い出に残っているのは、担当の国語科の先生に言われた『授業は生き物』という言葉です。教師は人を相手にする仕事なので、柔軟な対応ができないと成り立たない職業であると身をもって感じました。教育実習で学んだ経験を糧として、将来みんなの笑顔を守り、幸せを与えることができる社会人を目指していきたいです」



高橋翔吾さん：「最初の一週間は、教材研究に追われたり、環境に慣れていなかったりと実習を無事に終わることができるのか不安でしたが、生徒とコミュニケーションを図る中でクラス内が良い雰囲気になっていき、授業がとてもやりやすくなりました。良い授業をするには生徒との関係作りが重要だと気付きました。文化祭にも準備の段階から携わらせていただき、最後には楽しみながら実習を終えることができました」



武藤美優さん：「3週間母校の中学校で教育実習をさせていただきました。短い時間のなかでも生徒の元気や笑顔に沢山の刺激を受けながら生徒の成長に携わることができて、改めて教師の魅力に気づくことができました。この教育実習は私にとって初めて明確な夢ができたかけがえのない時間でした。生徒と話したことや思い出を胸に教師を目指して努力し、これから出会う生徒に夢や目標を与えてあげられるような教師になります。素敵な生徒と先生に出会えた本当に幸せな教育実習でした」

